

会		議		記		録	
会議の名称		予算特別委員会（全体会）		会議場所 全員協議会室			
				担当職員 加藤 太郎			
日 時		令和4年3月15日（火曜日）		開 議 午前10時30分			
				閉 議 午前11時12分			
出席委員		◎平本 ○木村 浅田（総務文教分科会◎） 長澤（環境市民厚生分科会◎） 赤坂（産業建設分科会◎） 三上 富谷 大塚 田中 並河 山本 三宅 松山 小川 奥野 藤本 木曾 竹田 齊藤 西口 菱田 石野 <福井議長>					
執行機関 出席者							
事務局 出席者		山内事務局長、井上次長、加藤副課長、佐藤主任、小野主任					
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名	議員0名（－）			

会 議 の 概 要

10：30

[平本委員長 開議]
[事務局長 日程説明]

1 予算審査

（1）市長質疑項目

- ・各分科会の報告～全体会の決定

<平本委員長>

昨日までの各分科会審査で抽出された市長質疑項目は、お手元の一覧表のとおりである。本日の全体会では、分科会で決定された市長質疑等の内容について、分科会委員長から報告いただき、全体会として内容を共有した上で市長質疑項目として決定していきたい。全体会で合意を得られれば、本日中（午後3時予定）に執行部へ送付させていただく。それでは、各分科会委員長から議論の経過等、順次説明いただき、説明後に質疑を行う。

[総務文教分科会報告]

<浅田総務文教分科会委員長>

総務文教分科会では、市長質疑に6項目を抽出した。1点目は、市長公室の文書広報費（広報経費・広聴経費）である。広報誌の発行、ホームページ、ソーシャルメディアの運用、オンラインTV等映像情報、その他PR媒体の活用により、市政情報を広く発信する。市のPRを効果的・総括的に行う体制を構築し、戦略的なシティプロモーションの推進を図る予算である。質疑では、デジタルマーケティングは大きな根幹となり、今後の亀岡市の施策に結びついていくものであるということが見えてきた。その点について大きな方針としての思いを聞きたい。また、広報はいろいろなアイデアや手法を出してきているが、広聴は市民の声や動向をしっかりとつかむところにもう少し力を注ぐべきである。2点目は、総務部のセーフコミュニティ推進事業経費である。セーフコミュニティ活動を通じて、外傷予防や安全向上対策を行い、子どもから高齢者まで誰もが安全に安心して暮らせるまちづくりを進める予算であるが、セーフコミュニティの在り方について、国際認証を受けないとし

ても、今後、国内認証でどのようなことを考えているのか。3点目は、総務部の災害対策経費である。生活様式や価値観の多様化、感染症予防の観点等から、自家用車の中で避難する車中泊避難の増加が予想されることから、安全に車中泊避難できる専用避難場所を整備する予算である。車中泊をしてはいけないとは言えないが、市有地があるからというだけの考えで活用することや、それも長期の車中泊とはどのような考えなのか。4点目に、生涯学習部の人権啓発推進経費であるが、人権啓発活動とともに、人権相談等の人権擁護活動を行うほか、人権尊重のまちづくりを一層推進するため、亀岡市人権条例（仮称）制定に向けた取組を進める予算であるが、人権条例をつくることになった経過に疑義がある。どのような思いでどのようなものをつくろうとしているのか。5点目に、生涯学習部の生涯学習推進経費である。生涯学習のまちづくりを推進するため、ガレリアかめおか管理運営を行う予算であるが、令和4・1年までのガレリアかめおか長寿命化の構想でどのようにしていくのか。6点目に、教育部のみらい教育リサーチセンター事業経費であるが、社会の変化に対応した教育の創造及び充実を図ることを目的とした、ICT機器・人型ロボットを活用した教育の推進、学校における教育活動を支援する予算である。最近、先生と児童生徒のコミュニケーションが希薄化しており、人対人のコミュニケーションや、人から環境を教えてもらうといった観点が非常に大切であると考ええる。ロボットと先生が役割分担することはできない。また、今はロボットより人が欲しいというのが教育現場の実感ではないかと思う。以上6項目を抽出して、市長に質疑していきたい。

<平本委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。

<木曾委員>

災害対策経費、野水駐車場車中泊の関係であるが、熊本地震を踏まえた車中泊避難の対応検討会の取りまとめを、平成29年3月に京都府と亀岡市でやっている。そういう内容の説明はあったのか。

<浅田総務文教分科会委員長>

細かな内容ではなかったが、説明はあったと感じている。

<木曾委員>

細かな部分は別にしても、こういった内容が検討会で取りまとめられ、京都府から亀岡市が抽出されて検討されているが、それらの課題を解決するために今回の予算が立てられたとの説明ではなかったのか。

<浅田総務文教分科会委員長>

そのような説明ではなかった。

<木曾委員>

非常に大事な問題であるので、抽出項目にしていただきたい。車中泊することによりエコノミークラス症候群が出てくることに対して、熊本地震のときも大勢の方が亡くなっている。このことに対してしっかりと説明を理事者に求めたい。

<竹田委員>

人権啓発推進経費の人権条例の関係であるが、政策研究会のテーマとの関連について、分科会で議論はあったのか。

<浅田総務文教分科会委員長>

政策研究会のことについて、直接にはなかった。

<竹田委員>

大きく人権について考えるのであれば、そのことは必要であると思うが、全くなかったのか。

<浅田総務文教分科会委員長>

大まかな説明の範囲であったと思うが、直接的な説明はなく、委員からの質疑や議論は出されていない。

<赤坂産業建設分科会委員長>

みらい教育リサーチセンター事業経費の人型ロボットの関係であるが、コロナ禍においてコミュニケーションは希薄化しており、学校では試験的に人型ロボットを活用しているようである。学校でどのようなことをしているのか、また、どのようなことができるのかについて、執行部の説明や委員の意見、議論の内容を教えてください。

<浅田総務文教分科会委員長>

人と人とのコミュニケーションが薄くなっている環境であり、ロボットと先生が役割分担する中で、人型ロボットを導入する予算である。現状では、保津小学校と大井小学校に配置されており、明日の授業後に保津小学校を現地視察し確認する予定である。人型ロボットの必要性や活用することでどのくらいの効果が現れるのかといった質疑があった。

<赤坂産業建設分科会委員長>

人型ロボットは何台導入するのか。

<浅田総務文教分科会委員長>

19台予定されている。

<木曾委員>

明日の市長質疑が終わってから人型ロボットを見に行っても遅い。

<浅田総務文教分科会委員長>

学校との調整で明日のその時間に確認することになった。

[環境市民厚生分科会報告]

<長澤環境市民厚生分科会委員長>

環境市民厚生分科会では、市長質疑として1項目を抽出した。こどものあそびば整備等事業経費であるが、令和4年度に民間の事業提案をプロポーザルで公募し、選定された民間事業者が施設の企画、設計、施工から竣工後の運営までを業務委託することが想定されている。京都スタジアム内の大河ドラマ館跡の空間、約700平方メートル、施設整備に1億円の予算を予定されており、財源は全額繰入金である。また、令和5年度以降になるが、スタジアム自体の指定管理者であるビバ&サンガに借館料として本市から年間1,500万円を支払う。運営については、入園者に一定の利用料金を設定されるが、審議の中で確認したこととして、大人・子ども料金が予定されている。乳児、0～3歳児程度までは無料であるが、入園する際に保護者の付き添いが必要であり、大人料金の適用対象となる。赤字が出た場合は、最大500万円までを本市が運営補助金として予定しているとのことであった。分科会での議論では、入場者数、広域的な範囲からの入園、事業収益等の見通しや人件費等の経費との兼ね合い、また、そもそも必要な施設であるのかといった意見があった。それらをまとめた結果として、木育ひろばの運営・経営の見通しと今後の事業展開の構想についてを論点としている。

<平本委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。
—質疑なし—

[産業建設分科会報告]

<赤坂産業建設分科会委員長>

初めに産業建設分科会で審査した流れを説明してから、質疑項目に入っていきたい。農業整備に対しては、相変わらず前向きでない予算である。スマート農業のチャレンジ事業もあったが、予算も少なくＩＣＴやロボットを活用するまでもないドローンを使う簡単なものである。農業担い手づくり育成事業経費では、強い亀岡農業の構築に向け、地域農業の新たな担い手や中核的な担い手の育成・確保とある。現在１人しかいない、担い手専任マネージャーの増員を求める意見があったが、次年度も亀岡全体でマネージャー１人と残念な結果である。次に、新規事業の佐伯直売所整備であるが、約３，０００万円を投じて、国道３７２号沿いの蒔田野町のローソン近くに木造の建物が建築されるものであり、近隣３町の曾我部町・蒔田野町・本梅町の生産者の農作物販売で運営されるとのことである。次に、林業生産振興事業経費の新規事業、流域育成林整備事業補助金は、森林施業と路網整備として森林・林業基本計画が策定されて４年間、豪雨等による災害の激甚化を踏まえ、林業の専用道路を活用するための補助金である。これは森林組合に支出されるものであるが、先ほど説明した農業整備の各事業や林業に対しても、前向きな予算は見受けられなかった。亀岡市森林組合は業者であって、組合自体は約２億円の資金を持っているが、その財産を全く活用していない状況である。行政側が亀岡市森林組合に依存し過ぎるのも問題である。項目名は多少変更があり、新しい事業も入っているが、内容にほとんど変化はない。森林整備にも関わりの強い鳥獣対策事業経費は、今回ドローンを導入して駆除作業するようであり、亀岡猟友会の方が講習に行かれると聞いている。やはりマンパワーが必要な今、鳥獣駆除問題は大変な状況であるので、亀岡市での猟銃資格講習などの開催を増やし、もっと若い人に協力・参加してもらいたいとの意見があった。森林整備に対して考え方が甘すぎる。あと１０年、２０年すれば大変なことになるといったかなり厳しい指摘もあった。これらの農林関係の中から２点の質疑項目を抽出している。次に商工費、亀岡市観光協会の在り方であるが、昨年９月の決算事務事業評価において、観光推進経費の亀岡市観光協会運営費補助経費について、毎年の観光入込客数のデータの把握もなく、観光戦略や宣伝もほとんど変化がない。大半が人件費の補助であり、しっかり見直してほしいと指摘している。亀岡市観光協会の年間予算は、前年度で市補助５，２１６万２，０００円、自主財源１，３６７万９，０００円、合計６，５８４万１，０００円をもって運営している。亀岡市観光協会に対してどのように取り組むのかとの質問に対し、理事者から、次年度は亀岡市観光協会への適正な補助金を支出するとの説明があったが、実際はほとんど変化がなかった。確かにライブカメラの見直しや人員を削減するなどと言われていたが、今まで補助金頼みの運営になっており、自主財源をしっかりと確保できるよう努力しなければいけない等の意見があった。次年度からは、鳥山シティプロモーション担当室長が、観光アドバイザーとして専門人材の獲得や観光案内所、亀岡市観光協会の組織改革を行っていくとのことである。次に、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業は、今年度からスタートして３年枠の事業であるが、ビバ&サンガのびばっこ保育園の園長、元経済産業省の方が市長と相談して始めた事業である。３年で１億５００万円以上の補助が行われるため、委員からは、支援するには委員会への報告はもちろんのこと、市民に理解して

もらえるような成果を出してほしいとの意見が多数あった。続いて、まちづくりに関しては、交通安全施設整備経費の街路灯のLED化について、自治会に各30棟を助成しており、市内ではほぼLED化になってきているとの説明であった。これに関連して、自治会からの要望があつての取り付けとなるが、中山間部ではまだまだ街路灯が少ないため、早急に設置が必要不可欠であるとの意見があつた。亀岡市は全国のセーフコミュニティの会長になったと聞いており、防犯カメラの設置も含めて市内中心部だけではなく、安全・安心な亀岡全体の整備を考えてほしいと要望した。次に、毎回議論になっているが、景観形成事業経費である。城下町エリアの伝建地区については、次年度にワーキング会議から協議会に変えて議論していくとのことであるが、老朽化でどんどん家が解体され、空き地には新しい住宅が建築されている今、検討会議をするのもよいが、時間がかかるばかりであり、市が率先して伝建モデル通りを造ったほうが早いのではないのか。JR亀岡駅北側だけ電線類が地中化になっているが、以前から言っている鉾町の電線地中化計画が全く進んでいない。歴史的景観を生かしたまちづくりの取組にはもう少し時間がかかるとの説明であった。次に、JR千代川駅関連整備事業費は、主な経費としてJR千代川駅バリアフリー整備調査測量設計であるが、JR関係業者が行うものであり、電気設備やエレベータ設計等の予算である。街路事業事務経費の新規事業で保津新国道線街路交通調査は、保津橋角でローソンがあつたところの春日坂交差点からアミティ先の古世口交差点までの間の幅員16メートルの歩車道化に向けた道路調査である。残さなければいけない歴史的な建築物もあり、しっかり調査してほしいとの意見があつた。次に、公園緑地管理経費であるが、指定管理業務をされている亀岡市パークコモンズへの維持管理委託料として、今年度の4,400万円から2,555万円に減額されている。プールのろ過機6機のろ材を令和2、3年度に3機ずつ交換した経費約500万円／年が削減されており、その他野球場等で水銀灯を使用していたものをLED照明にすることにより、約1,345万円の減額となっている。次に、歳入の市営住宅家賃の回収について、1,708万2,000円の内609万599円の約35%しか回収できておらず、これからどのように回収していくのかとの質問があつた。その他、土木管理では、鵜の川の山本樋門に関して、豪雨のときに冠水し打ち水被害があるため、排水ポンプ車を要望しているがなかなか話を進めてもらえない。府南部と福知山市にしかポンプ車がないので何か方法はないのかと質疑したが、理事者の説明では府南部から派遣してもらえるので、ポンプのルートは考えており自治防災課と連携するようになっているが、要望は続けていくとのことであつた。おおまかな説明は以上であり、これより分科会でまとめた抽出項目について説明していく。林業担い手育成事業経費であるが、森林組合育成事業補助金は主に研修費、林業労働者共済事業補助金と緑の担い手育成事業補助金は、森林組合職員の福利厚生に充てられており、総額151万7,000円である。林業事業就業者の人材育成の安定した雇用、森林組合の育成を図ると説明されているが、令和3年9月の事務事業評価で、事業名に対して必要な予算措置がされていないので変更するよう強く指摘したのにもかかわらず、全く変化なく同じ状態の予算が立てられている。この状態ではしっかりとした担い手は育たないとの意見があり、就労者の確保や支援、林業の育成とは何かといったことや、議会への軽視が見受けられたため、林業担い手育成事業経費を質疑項目に抽出した。次に、同ページの森林活用推進事業経費であるが、経営管理権集積計画業務委託料は、森林所有者等の意向調査のことである。誕生祝品製作業務委託料と誕生祝品監修業務委託料は、ウッドスタート宣言に関わる9名の作家に支払われるものである。木材利活用の促進及び木育推進の

ためのすばらしい取組であるが、森林活用推進事業経費というのであれば、本市全体の森林環境の整備を考えた基本計画を立て直し、有害鳥獣駆除対策にも効果がある連携した取組を考えなければならない。木育推進の新規事業である誕生祝品贈呈や木育キャラバンの実施もよいが、製作する木製玩具は亀岡市内の木材でなく、本来ならば亀岡の木材を使って、また、廃材が出れば木質バイオマスの活用も考えていかなければならない。環境先進都市かめおかを掲げるのであれば、木育を始めるにあたって総合的に考えていかなければならないとの意見が多く、市長質疑項目となった。最後に商工業振興対策経費であるが、一つ目に平和祭花火大会事業補助経費に毎年300万円の予算が計上されていた。コロナ禍で2年間開催されていなかったが、今回の1,200万円の予算案は、ガードマンの確保や取組準備に経費がかかるとの説明だけであった。まだまだ全国的に沢山のコロナ患者がいる状況で、今なお市内でも沢山感染されている状況であるが、たとえ終息したとしても、新たな感染が発生するかもしれない。なぜ、今この金額で予算立てしなければいけないのかとの質問があったが、そのときの状況を見て中止を判断したいと思うと答えられた。年末に予算を立てる中で、現在の感染状況を分かっている、年明けからコロナの感染が拡大してくる状況が予想できたにもかかわらず、このような予算立てとは信じられないとの多くの意見が出た。次に、産学官連携事業補助金であるが、御承知のとおり京都先端科学大学と協定が結ばれており、新事業の創出を図ることを目的として、大学などの教育機関・研究機関と民間企業、政府や地方の「官」を加えての産学官連携事業である。京都亀岡イノベーションヒルズ構想から始まり、機械・電気・電子ほか研究開発や人材育成を核とした京都府南丹地域初の産学官連携拠点について、亀岡市と京都先端科学大学で計画し、地方大学地域産業創生交付金を申請されていたが、国に採択されなかった。令和4年1月17日に京都先端科学大学・亀岡商工会議所・亀岡市で協定を締結し、令和4年度から京都先端科学大学亀岡キャンパス内の未利用地や未利用教室を活用したオープンイノベーションセンター亀岡を整備する事業である。今後、財政も厳しくなるかもしれない中で、今回から計画を立てられて投資するのであれば、本当に予算に見合う成果が得られるのか、しっかりとした連携ができるのか、また、いつまで資金補助をしていくのかといった明確な回答を求めるため、市長質疑項目となった。

<平本委員長>

ただいまの報告に対する質疑はないか。

—質疑なし—

<平本委員長>

各分科会からの市長質疑項目を全体会の市長質疑項目とすることに異議はないか。

(異議なし)

<平本委員長>

異議なしと認めて、全体会としての市長質疑項目は決定した。ここで木曾委員より、市長質疑項目以外の内容で、会派内でも確認はしたが、さらに議論の経緯を聞きたいと申し出があるので、発言を許したい。

<木曾委員>

エコトピア亀岡で行われているごみ減量・資源化等を推進する内容であるが、基本的な考え方についてどのような議論があったのか。

<長澤環境市民厚生分科会委員長>

埋立てごみ中間処理事業については、これまで単年度で試行されてきたが、令和4

年度からは3年契約に改めて実施されるものである。また、従来はエコトピア亀岡の平場で作業されていたが、効率的に作業を進められるように、建屋の設置など何らかの支援を考えられないかとの意見があった。

<木曾委員>

何度か見に行ったが労働環境が悪い状況であるので、委託する以上は設備的な問題も含めて責任をもってしっかり対応しなければならない。環境先進都市の取組としておかしいことになっては困るが、かなり改善されるということで確認した。

2 その他

<平本委員長>

事務局より、予算特別委員会の今後の日程について説明願う。

[事務局長 日程説明]

<平本委員長>

これで本日の予算特別委員会全体会を散会する。

散会 11:12